

議事録

委員会名	第1回中野区消防団運営委員会
日時	令和8年1月23日（金） 15時00分から16時18分まで
場所	中野区中野四丁目11番19号 中野区役所7階 701会議室
諮問事項	切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動能力の継続的な強化方策について
出席者	<p>委員長：酒井 直人（中野区長）</p> <p>委員：荒木 ちはる（都議会議員） 西沢 けいた（都議会議員） 久保 りか（都議会議員） 河原井 守（中野防火防災協会会長） 大野 道高（野方防火防災協会会長） 河合 りな（区議会議員） 大内 しんご（区議会議員） 木村 広一（区議会議員） 黒沢 ゆか（区議会議員） 吉田 康一郎（区議会議員） 有川 泰広（中野消防署長） 関 正子（野方消防署長） 日高 泰夫（野方消防団長）</p> <p>事務局：中野区防災担当課長、災害対策担当係長 中野消防署警防課長、中野消防署防災安全係長、担当者1名 野方消防署警防課長、野方消防署防災安全係長、担当者1名</p>
欠席者	立石 りお（区議会議員）、野中 幸雄（中野消防団長）
傍聴者	0人
配布資料	<p>中野区消防団運営委員会（第1回）次第</p> <p>中野区消防団運営委員会委員名簿</p> <p>資料1 中野区消防団運営委員会の答申と東京都の対応方針の概要</p> <p>資料2 特別区消防団運営委員会の 諮問に対する答申のとりまとめに向けた検討の方向性</p> <p>資料3 消防団に対するアンケートについて</p> <p>資料4 委員会日程（案）</p> <p>別添え 特別区消防団運営委員会の主な答申及び対応方針について</p>

審議内容	
事務局 (防災担当課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・配布資料の確認
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長挨拶 ・新委員の紹介
事務局 (中野消防署警防課長)	「資料1 中野区消防団運営委員会の答申と東京都の対応方針の概要」について説明
委員長	ありがとうございました。ただ今の説明について、ご意見等がありましたら委員の皆様、挙手の上ご発言願います。
各委員	(挙手する委員なし)
委員長	ご意見がなければ本議題を終了します。
事務局 (中野消防署警防課長)	「資料2 特別区消防団運営委員会の諮問に対する答申のとりまとめに向けた検討の方向性」について説明
委員長	議題の2番についてのご質問、ご意見がありましたら挙手の上ご発言をお願いします。
吉田委員	<p>私も20年、中野と野方の消防団さんに、始式を含め、いろんなところでご活動を拝見させていただいて、いろんな団員さんとお話をさせていただいて、いろいろ本音みたいなところを伺うことがあるんですが、ある分団さんのところで、受賞もされたようなしっかりと活動されている女性の複数の分団員さんたちから、小さなことかもしれないんですけど、消防団さんの制服と活動服っていうのがあるんですね。その制服の方を着て活動、事業、イベント、行事に参加する機会が少なく、いろいろな活動が活動服の方でやられると。その女性の団員さんたちの個人的なご意見としては、制服の方が着て、非常に気合いが入ると言うんですか、非常にやる気が出ると。活動服の方がちょっとそうでもなくて。制服で活動する事業、行事に出る機会を増やせないかみたいなお話が出ていたんですね。これには多分二つ改善策っていうのがあると思っています。制服でのイベントを増やすという方法と、活動服の方も、活動服の方を女性の団員さんの皆さんにとって魅力があるというか、気合いが入る意匠へブラッシュアップするというか。そういう方策と方向性があると思うんですが。実際にそういうお声があったので、本当にこれは団員さんが積極的に意欲的に活動できるために、そういうところで改善ができるのであれば、それはぜひ改善していただいた方がいいんじゃないかと思うので。これは各種資機材、制服というのが資機材になっちゃうのか。機能性の中には意識が高揚するというか、意欲が高まるというのが機能として当てはまるかどうか分からないんですが。そういう具体的なお要望があったので、この場で、ぜひご検討いただければと思います。</p>

<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。そういう実際の声があったということですので無視はできないと思っております。おそらく制服と活動服の特性を考えれば、実際に体を使ってやるような訓練ですとか防災訓練指導ですとかは、恐らく活動服が適しているんだらうと。一方で、入団促進広報とかそういった部分に関しては、制服の着用も本人のやりがいという部分もありますし、それを見ている区民の見え方ももしかすると違う観点の見え方がするのかなというふうに思いますので。</p> <p>どこの部分に落とし込むのが適切なのか、まず検討させていただきながら、あるいはその他部分として、団員のやりがいの部分として表現させていただくのか、そういった形で何らか表現させていただくことでも問題ないでしょうか？</p>
<p>吉田委員</p>	<p>団員の皆さんのやる気が上がるのであればどこかに入れていただいて。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>わかりました。恐らく最初にご意見いただいた事業を増やすっていう話は、恐らくその負担軽減というものを求めている今回の指針に対してはちょっと当てはまらないかなと思いますので。どちらかといえば日常の団活動の中でそのシーンを選んで、表現の中で落とし込ませていただければなと思います。</p>
<p>大内委員</p>	<p>方面訓練場というのはどちらにあるんですか？</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>今、ここで一番近いのが、第三方面というのは渋谷とか目黒とかあっちの第三方面というんですけども。渋谷の消防学校、笹塚、幡ヶ谷駅のちょっと南の方に消防学校があって、その隣に第三消防方面本部のハイパーレスキューが控えているところがあってそこに訓練場がありまして、そこを今考えています。実際に中野消防団に関しては、年に1回、渋谷の消防団と共同でその場所を使って実際に活動訓練させていただいているという実績がありますので。実効性もこの点については保てるのかなというふうに思っております。</p>
<p>大内委員</p>	<p>あともう一つ。消防庁のeラーニングシステムというのはどういうものなのですか？</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>パソコンからアクセスして、例えば消防訓練や、各種訓練の動画を閲覧できたり、消防団のハンドブック、活動資料など、そのようなものを見られるシステムがあり、皆さんに使っていただいているということです。</p>
<p>大内委員</p>	<p>それは誰でもアクセスできるんですか？</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>消防団員の方だけです。</p>
<p>大内委員</p>	<p>団員だけ。ありがとうございます。</p>

荒木委員

課題1の検討事項1の2、多様な主体との連携により被害軽減の方策についてということで、先ほど課長からマンションとか商店街のお話を出していただいて。東京都で取り組んでいるのがまさにマンション防災と、今年と来年の予算に商店街の防災ということで。なかなか届きにくいのがやっぱりマンションの中の防災で。大野会長や河原井長も町会長も務められていますけれども。なかなか町会からマンションに、町会に入っていないマンションになかなかリーチするのが難しいという中で、ぜひ消防団の皆さんにいろんなマンションとの関わりとか。防災訓練にもなかなかマンションの方々が、特に高層階から降りてきてくださるということもなかなか難しいので。ぜひ東京都これだけ東京とどまるマンションとか、マンション防災とか、あと商店街の防災力向上とか政策をたくさん出している。ぜひ東京消防庁と産業労働局とか、総合防災部とか、多分そういうバラバラにはなるんですけども、ぜひ消防団の皆さんに東京都がこんな防災のことを始めたよということを、ぜひ消防署からか消防庁から消防団の皆様にお知らせをいただくと、東京都ってこんなことやってるんだ、なんか自分たちも消防団としてできないかなというのを考えていただけるかなというふうに思って期待をしています。

特に、今回商店街の防災力向上の助成を作ったところ、なかなか執行率が高くないんですね。というのが、今まで町会の皆さんは地域の底力とかいろんな防災訓練を日頃からやってくださっているんですけど、商店街がやったということは実は、今回、東京都の補助事業では初めてで、10分の10、30万円というのは初めてのことで。商店街初めてだったので、どうやってやるのかがわからないということがあって。町会と組めるところもあれば、そうじゃないところもあって。その時にとっても活躍してくださったのが消防団の皆さんなんですよ。例えば野方の商店街でも消防団の皆さんが加わってくださって防災訓練ができたとか。南の方でも消防団の方々に頼んだら、消火器とか積載車を運んでくれたので防災訓練ができたという声があったので。ぜひ、消防団の皆様のを商店街とかマンションとかにお貸しいただけるようになれば嬉しいなというふうに思っています。

そのためにはやっぱり情報を伝達していくということ。東京都の政策はこういうのがあるよとか。もちろん中野区でも頑張られているので、中野区がこういうのを始めたよという防災とか。もちろん防火防災に限ってだと思えますけれども、そういうものをぜひお知らせできる範囲で、全部というのはなかなか難しいと思うので、していただけるととってもありがたいなというふうに思っています。消防団の皆さんの負担も増えるかもしれませんが、でも逆にやりがいとか、ここにある減災にもなるかなと思ってます。どうぞよろしく願います。要望なので大丈夫です。

<p>日高委員</p>	<p>今の商店会とか、マンション等の町会への入会が非常に少ない状態。今の新しいマンションは結構町会加入がいいんですよ。ただ、何十年も建ってるところのマンションが一切町会に加わらないと。ただ個人的に部屋を持っている人の1、2軒は入るって言われても、その人のためにいろいろな行事の通達とかなかなかできないので。マンション自体で考えてくれとは言ってるんですけども。それで今、商店会も皆さん、持ち主がみんな貸してる。それでみんな借りてる人が商店を運営している。その中でいろんな行事をやれと言っても、なかなかその人たちは自分たちの商売で精一杯で。大きな会社なら社長さんがいて、社長さんが動いたりとかできるかもしれないけれども、一人二人でやっている店舗とかそういうのは、ほとんどそういったところに協力する体制ではないという、できない状態のところが多い。</p> <p>だからそういう人たちに中野区の手を借りるとすれば、結局そこに住民票を移す、移した人とか、そういうところに移すときに、「この町会は、あなたの住むところはこういう状態の町会でこういうふうやってますよとか、あなたはそういう取り組みをしているところに住みますよ」という、何かリーフレットみたいのを1枚ぐらいつけて住民票を移す人に渡すとか。結構ね、街に住む、住民票を移してそこに住みますけど。その町会がどうなってるかわからない。それで今、学校も結構自由に、小学生がいても選べる、登校する場所を選べる。うちの近所の子供3人いたんですけど、本当はあそこは令和小学校なんです。だけど、桃二に行っている。それで、うちの町会には向こうでやっているから一切関わらない。なんかね、なんかバラバラになってきちゃってるんですよ。その辺が行政としてきちり区切るところが、あなたはここからの線でこっちに通いなさいとかそういうのをやらないと、バラバラになっちゃって。うちの子供は向こうに行ってるから向こうで付き合ってるとか。なかなか難しくなってますね。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員長としての立場じゃなくて、行政の立場。学校の区域について、基本は線を引いているので、原則は決まったところに行くはずなんです。いろんな事情があって申告していただいたときにそれを認めているっていう形なんですね。だから、多分ちょっと個別になってしまうんですけど、その方は何らかの理由でそれを変更しているということだと思います。</p> <p>あとはマンションの新規についてはやっぱり区としても今働きかけしてるのはその通りです。既存のマンションについて、まさにとどまるマンションの話とか東京都の話とかも含めてマンション防災というのが大きな課題なので。そこは我々行政としてもどうやってアクセスして、しかも参加してもらおうとなるとやっぱり町会に入って下さいというか、まずは防災などで、あなたたちは地震が起ったら一緒にここで活動しなきゃいけないんだよ、という当事者意識を持ってもらわない</p>

	と、なかなか入ってくれないなというのはもう皆さんがおっしゃっていることなので。そこを引き続き我々としては捉えていきたいなと思います。
日高委員	だからそういうところでも、結局町会とかそういうのでレスキュー大会とかやってますよね。そういうのも、やっぱり人の目にさらされるというか、人の目に見てもらおうようなことをしないと、いくらこういうのをやりますよって紙を配っても、ああそうって、それでおしまいになっちゃうんだけども。たくさんの人の目にさらされる。そして町会の人たちもこういうことをやってるんだな。子供たちもその親御さんも、あ、こんなのやってんだ。消防団も同じかもしれないですね。全然人のいない公園の中、誰も観客がいないところで操法をやっても、せっかく我々がこうやって一生懸命訓練やってても全然人の目にさらされない。だから消防団って何やってんの？みたいな。それじゃ、せっかくやっても何にもならないと思うんですよ。もっと目立つところでみんなの姿を見せてあげたいと思っています。
委員長	中野区役所が新しくなって、1階でイベントをやるようになって、ガラス張りになって何やってるのか外から見えるっていうのがあって。割と結構、普段は全然目立たない活動してるんだけど、あそこでやることによって興味があって声をかけてくる人がいたとかいう、そういう話も出てきて。今、団長もおっしゃる通り、多分そういうことだと思うので。我々としてもそこは受け止めたいと思います。
西沢委員	始式って、前ちょっと聞いて忘れてしまったんですけども、野方も中野もホールでやるじゃないですか。あれ、何ででしたっけ？今の話聞いてて、天候の問題も多少あるとは思いますが、外でやると寒いというのもあるかもしれないですけども。一般の方も結構おられない機会もあったりとかして。やっぱりそのさっき制服の話もちょっとありましたけども、カッコいいなと思って。なんかそういうのもあるのかなと思ったんですけども。少し余談になっちゃってますが、それは、何ででしたっけ？
日高委員	昔は学校でやっていたんです。それだけのやっぱりスペースがいるものですから、整列してね。それで、この気候がちょうど始式の時期って強烈に寒い。そこで2時間ぐらい立ってるわけですよ、団員が。そうすると倒れる人が出てくる。
西沢委員	わかりました。 私の方から課題の1の1、1の2、それから2の1に関わるようになるのかと思いますが、AIの活用について申し上げたいと思います。 これまでも、インターネットが出てきたときのインターネットの活用であったりとか、SNS、X、インスタなども、これまで今回の先ほどの報告の対応状況の中でもそういった報告もいただいて対応してきているというところがありますが、これからはおそらくAIの活用と

	<p>いうところがあると思いますし。3年に1回の答申だと、もう今、AIも1年2年で全く違うものに今なってきてますから。是非もし答申の中に入れられるのであれば、AIの活動で、例えば消防団アプリというようなところのお話のございでしたが、AIを活用するだけで連絡事項であったり、それを要約してくれたりだったりとか。様々な活用の仕方があると思いますし、効率化や情報連絡体制の強化につながるのではないかなというようにも思います。</p> <p>また、eラーニングの話もございでしたが、まさに今AIでの動画の生成というものが本当に本物と見分けがつかないぐらいにまでなってきてます。これは災害の状況であったり、中野区のこの場所というようなことの想定での動画の作成であったりとかということにも十分できることだと思いますし、妙正寺川、神田川の氾濫した場合のシミュレーション動画みたいなものなども十分作れるようなレベルになってきているのかなと思いますから、例えばこうしたラーニングシステムなどにも有効に活用できるのかなとも思っています。</p> <p>それから外国人への防災指導の話もございでしたが、コミュニケーションツールとしてもAIの活用というものが十分だと思いますし、何かを見せて理解してもらおうであったりとか。トラブルが最近増えているところは外国人トラブル、よく社会問題にもなってきていますから、こうしたところにも十分活用できるのかなと思いますので、AIの活用とちょっとざっくりとはなってしまうかもしれませんが、AIの活用というところですよ。</p> <p>あと少し細かいんですけども、アンケートが結構大変だというような話を聞いて、アンケート回答率があまり高くないという話を聞いております。工夫しているとは思いますが、団員の方々にご負担なく、行事による負担軽減という。こういった場になると、どうしてもああいうこともやってほしい、こういうところもやってほしい、消防団にこうしてほしい、ああしてほしいと言いたくなってしまうのですけれども。負担軽減というようなことも課題ということでございますので、そうした課題やアンケートなどについても負担軽減を図っていただければよろしいのかなというふうなことをございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>ちなみにこのアンケートは紙でやるんですか？</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>いえ、ネットで。</p>
<p>委員長</p>	<p>そうですね。その方が回答しやすいかなと見ていて思いました。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。まさに新しい先端の技術というものを使っているということが当然求められますし、精度もだいぶ安定してきていて委員のおっしゃるとおりだと思いますので。何らかの答申の中でしっかりとその辺を書かせていただきたいと思います。ありがとうご</p>

	<p>ざいます。</p>
日高委員	<p>今のA Iとか、そういう活用の件なんですけれども。今、この中野区役所の防災センターも、N T T回線全部使っております。これは現実的にN T T回線が切断されてない場合は非常に有効的だと思います。ただ有識者によりますと、携帯電話のアンテナ基地というのは、震災があつて幾つか壊れた場合に一旦全部停止するらしいですよ。ですからL I N Eも何も、その最低でも2日間は止まると。それで修理は終わってから立ち上げる。そうしないとせっかく生きてるアンテナがみんな壊れちゃうんですって。</p> <p>これもちよつとN T Tとか検証してもらつて。その震災があつて、アンテナが壊れた場合にどの程度で復旧するのかとか。その時には空白になるわけですよ、その通信網というのが。きつこの地下ケーブルかなんかなつてと思うんですけども、地下ケーブルの切断ということもあり得ると。私たち月に1回づつそういった専門の人たちと会合をやつてるんですけども。まず専門の人も、そのN T Tの、昔からこの修理、神戸に修理行つたりとか、そういう人の専門家から話を聞いているので、私は自信を持って言うんですけども。この間も、今度自信持つてその話していいですか？つて言つたら、それは当たり前のことだからいいですよと言われたんですけども。現実的にN T Tとかそういうところでどういう状態になるのか、確認していただきたいと思ひます。</p>
大内委員	<p>一ついいですか？N T Tが安否確認の番号、震災とかあつたら安否確認とかかけて、あれも使えなくなるつてことですか？2日間は、安否確認の電話は不通になるわけですか。</p>
日高委員	<p>その点ちよつと調べていただいて。現実的に最悪の場合を考えて何が有効、その時にどういうものがカバーするのか、通信網を。それも考えていただきたいなど。</p>
委員長	<p>我々としても、区役所の委員会も区も話も入りますので、そこはちよつと一旦持ち帰ります。</p>
黒沢委員	<p>まず最初のeラーニングとアプリの住み分けについて少し伺わせていただきたいと思ひます。これを見ますと災害時などにアプリを使った情報伝達をするのはどうかみたいな質問がまずあるんですけども。まず現状としてeラーニングの中で団長通知、これも一つの情報連絡だと私は思っているんですけども、がありまして。現状、運用としてはそれぞれがこの情報を取りに行く、行かないと見ることができないということがあつて。分団長などがその情報をダウンロードしてそれぞれが持っている、例えばL I N Eのグループだつたり、他にはL I N Eワークス使つている方もいるというふうに伺つていますが、いろんなそういうグループでP D Fを送つたりスクリーンショットを送つたりして、今どうにかやりとりをしているという状況があるので。その</p>

	<p>前提というところも含めて整理が必要なのかなと思いました。</p> <p>災害時においてという質問になってるんですけども、平時に使えていないとか、アプリを開こうとしても、おそらく更新であったりとか、そういった場面で急な対応がなかなか難しいのかなと想像したところで。聞き方のところも工夫できないかなというふうに感想として思ったんですけども、その辺いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。まずアプリとeラーニングの住み分けの話なのですが、今、基本的にeラーニングは統一教材として各自が閲覧するものとして使われています。ですので、連絡手段として使っているのではないというのが一つ。</p> <p>アプリというのはどちらかというと、今、例えば火災発生の連絡とかを電話やメールで行ったりするので、もう少し利便性の高いようなアプリという形にしておけば、いろんな手続きもその中でやっていけるんじゃないかなというのが一つ思いの中にあります。ただ、実際まだ専用アプリというものの自体がないので、その中に必要な機能を打ち込んでいければというのが今回の趣旨で書かせていただいている例でございます。</p>
<p>黒沢委員</p>	<p>ここまできみ取れるかなというところが。なかなかこのアンケートの見方が。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>分かりました。アンケートの書き方が伝わるような書き方にしたいと思います。</p>
<p>黒沢委員</p>	<p>言葉の認識とかがなかなか。言葉がわからなくて、“なし”みたいな。その可能性がちょっとあるのかなとも思ったりして。団長通知についてもいつアップされたのかも分からないので、その分団長から通知が出されましたよと教えてくれて取りに行ったりとか。せめて通知などがあるといいのに、というふうなところですか。これは意見です。</p> <p>もう一つが多様な主体との連携のところなんです。現状、外国人へ指導に携わったことのある方というのはそもそも把握されていらっしゃるのでしょうか？</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>現状把握してないので、アンケートの中で実態としてあるのかというのを顕在化したいなというふうに思っております。</p>
<p>黒沢委員</p>	<p>質問があったので、指導の経験がある人はいますかっていう、それも聞き方で、実際、分団員の中に配偶者の方が外国人である方とかもいらっしゃるって、恐らく関心のある方というのはいらっしゃるって私は認識しているんですよ。海外経験のある方なんかもいらっしゃると思いますし。ここも恐らく、聞き方によってはやってみたいという方は恐らくいるのではないかと。ただ、経験はないかもしれない。指導経験があるかというところちょっとハードルが高いなと思っていて。そういった聞き方であったり、皆さんが団を回っていただく中で、そういったヒアリングをしていただけたらありがたいなと思います。</p>

<p>久保委員</p>	<p>今回、女性団員が3名いらっしゃいますし、河合さんもいらっしゃるんですけども。私も今、その現場で本当に必要なものは何なのかなと思いますと、eラーニングって普段やるものではないので、これがアプリの方に統合していただくべきだなというふうに思っています。やっぱりプッシュ式じゃないとなかなか、団長通知もそうですし様々な連絡が来たことがわからないので開かないというのが現状であると思います。</p> <p>アプリでいろんな機能を、これはいくつも重層的にできるはずですので、そういった形で一本化していただいた方がいいのではないかなと思います。その中に先ほどの西沢委員からのお話がありましたシミュレーション動画ですとかAI活用というのも十分に活用していけるものではないかと思ったり、自学自習についても当然それは開いてすぐに自分自身でいろんなことを確認することもできると思うので、是非お願いしたいと思っています。</p> <p>前回の時につながる話なんですけど、資格取得のための講座の充実というのがありました。私もそうなんですけれども、手話ですとか、いろんな講座に団員として出させていただいて、そこをどういうふうに活用するかという場がなくて、講座を受けただけで終わってしまうということがあります。コミュニケーションボードなどが分団の資機材で必要なのではないかなという話があるんですけど、その手話の講座に行った時にはあったりもしておりました。これも、もしかしたらコミュニケーションボードを資機材にしなくても、アプリの中にそこも含むことができるのではないかなと思います。今まで積み重ねてきたものをしっかり活用できるようにしていくべきではないかなというふうに思っていますので、ぜひそのような形で進めていただきたいなと思っています。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。まさに直近の話かもしれないんですが、そういう形が理想型だと正直思っていますので、提言として何らか表現をさせていただきたいと思っています。</p>
<p>久保委員</p>	<p>先ほど野方の団長、日高団長からもお話がありましたけれども。やっぱり無線が最終的にやっぱりいろんな場で活用ができると思います。ですので、今、消防団の中でも関心の高い方たちが一生懸命ご自分たちで無線のいろんなグループを作ってやっていただいているんですけども、たまにはそのような訓練、通信網の訓練というのも行ってもいいのではないかなというふうに思っております。その辺は検討されていたのでしょうか。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。ちなみに中野消防団は団員で構成するハムクラブというアマチュア無線のクラブがあって、日高団長もアマチュア無線をやられているということで、区の防災フェアの日に実際に交信の訓練などを行ったりしていただいているところで、今、実態としてはそういう状況があるというご報告でございます。</p>

久保委員	<p>そこもやはり、免許を取っても活用がないと、私もそうなんですけれども、そういったところも含めてどういう活用が本当に、実際に受けてきたものが現場で役立つのかというところをしっかりと進めていただきたいなというふうに思います。</p>
日高委員	<p>それに関しましては、総務省の方で免許状を有する人が近くにいれば免許を持ってない人も使用できるという変更になってますんで。いろんな人が、その近くにいればみんな使えると。そういうふうに総務省でなってると思います。</p> <p>今職員の方がおっしゃいましたが、防災フェア、あの時に野方消防署の警防課長さんなどにご無理を言って、テント一つ、我々無線のブースをいただきまして、トヨタの給電車から電源をいただいて、そこでアマチュア無線の電波を出すと、そういった実験をやりまして。中野消防団、中野消防署と野方消防署。それで中野区役所のあそこの現場と三点で通信の訓練をやりました、実際に。もう非常にクリアに妨害なく聞こえますね。</p> <p>ただ、前にも言ったんですけど、MCAの場合は中継局がやられちゃうとあの無線機は全部使えなくなっちゃうんですよ。ダウンしちゃうと。その中継局の電波に乗せて電話みたいに話してるもんですから。その中継局がダウンしちゃうと全部のMCAが使えなくなると。なんか今度MCAが廃止になる。もうあと1、2年で廃止になるっていう。なんか総務省に何か出てたような気がするんですけども。どういうふうになるのかね、ちょっと私にはわかりませんが。もっと有効的なものになるのか。そういうふうになってほしいなと思います。</p>
委員長	<p>災害時の情報伝達手段としてどういうものがちゃんとあって、何が確保されて何が足りないのかっていうのを一度我々整理したいと思います。</p>
木村委員	<p>すいません。課題2の2の1の(3)で、実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進って、確認なんですけど、署隊というのは何を指しているのでしょうか。</p>
事務局 (中野消防署警防課長)	<p>消防署のことです。</p>
木村委員	<p>消防署のことですか？</p>
事務局 (中野消防署警防課長)	<p>そうです。実際の火災現場へ行けば、消防署の指揮命令系統の中に消防団も入っていただいて活動していただくというのが基本活動になると思いますので。ただそういうふうにはなかなかやってない感じがします。</p>
日高委員	<p>消防署の方も非常に消防団に友好的で。火災現場でも我々が正しいと思ってこれをお願いしますと言うと職員もすぐ対応してくれて。鷺宮の火災の時も我々の消防団の車が入れなかったんですよ、もういっぱい。それでたまたま天沼1というのが1線しか出してなくて風下</p>

	<p>から放水してたんですけども。そこに1線を消防団にくれって言ったらどうぞ使ってくださいって。そこでホースを延長して、それで裏から援護射撃して火災を食い止めたという実績、みんなそうやって訓練をやってけば。</p> <p>ただ一番大切なのはチームワークなんですよ。みんな、同じ訓練を東京都全員やっていますけれども、その中でみんなが気持ちを一つにするってというのは。やっぱりそのモチベーションを保つにはそれなりの皆の仲間意識を作らなきゃいけない。モチベーションを保つのが消防団として一番きつところですよ。だんだん離れていっちゃうんですよ。何もつかえがなくなっちゃうと、気持ちが。だから団ごとで昔はよく旅行とか行ってきましたけど。今、なんか、だんだんとそういうのが無くなったんで。意思の疎通とかそういうのが、いろんな性格とか、団員の性格とか、そういうのが読みづらくなっている世の中になっている。その辺を復帰させてあげないと、消防団として有効な火災に対しての仲間意識が出ないんじゃないかなと私は思っています。</p>
委員長	<p>消防署と消防団の連携プラス、消防団の間の中でのコミュニケーションがどうなのかっていう問題ですね。</p>
日高委員	<p>東京都でやっていただいたハイパーレスキューの見学。あれはこの間、野方で行かせていただきましたけど。8分団と4分団と7分団。それが合同でそういうところに行くと。その中でみんなでいろんな話をして、これはいいね、あれはいいね。その中でまた知り合いになれば、もし大火になった場合はその人たちがまたお互いに協力し合って、自分のできる場所を皆、そうやって協力して火災に立ち向かうことができると。私なんかはそう思ったものんですけども。</p>
河合委員	<p>先ほどアプリ、1-1の(1)の検討の方向性の方でアプリの話が出てたと思うんですけど。それは団本部にしかない情報を外からも見えるようにして、消火栓の場所などが、雪が降った時とかにどこにあったかなって言って、みんなで雪かきしに行く時とかに、最終的にPDFをLINEでみんなで共有してってやってただけど、そういうのをきちんと、そういう団本部にしかない情報も外から見れるようにしてほしいなと思っています。そして、それが効率化になるし、誰かが見つけてきてこれだよって写真を送ったりとかしなくて済むと思います。それを特に中野の中で、他の地域に例えば行ったとしても、消防団員として手伝えることとして、ここに消火栓があるよっていう情報提供とかお手伝いできることがあるかもしれないので。ぜひ団としてやっていただけたら。そういう地域に特化している情報を、分団本部にしかない情報を入れてるので、アプリの中に今後入れてほしい。</p> <p>多分、団のところに地図があるので。そういう、どこの範囲の地図だったりとか、地域の団本部に置いてある情報が外から見れるようになるといいなと思っています。町会、自治会とか学校コミュニティとかの健</p>

	<p>全性強化というところで、地域と結構最近防災訓練とかやることが多いんですけど、地域の方もとりあえず団長にお願いすればいいのかな、みたいな感じで、窓口がよくわかってらっしゃらないし、自分たちでやりたいと思ってもどこに相談していいかまず最初に迷っちゃうっていうのがあるみたいなので、窓口をしっかりと、ここなんだよって周知広報をしていただきたいなと思ってます。</p> <p>例えば、その地域の分団長に相談してくださいっていうのを窓口にするなど、やってみたいっていう関心があってもどうしたらいいかわからないっていう方の方が町会とか学校コミュニティの方だと多いのかな。それで分団長に相談に行くんですけど、始めからパッケージ化をちゃんとして、こういうことを教えてあげられますとか。例えばAEDの使い方を教えてあげられます、こういうことができますよっていうのを全部ちゃんとパッケージ化して、窓口をちゃんとしておいて、ここに相談に来てくださいっていうような形にしておいていただければ、こういうことを消防団に求めていいんだなって思ってくれると思うので、それも明確化していただきたいなと思っています。</p>
<p>日高委員</p>	<p>私も消防署の肩持つわけじゃないですけども、今のご意見に対して。各出張所とかそういうのは、各地域の防災リーダーに必ず全部連絡行ってます。全部挨拶しに行ったり、職員の方はみんなやってると思います。ただその中で防災リーダーとかそういったものを置けない町会、人員不足で。そういうところが結構あるんじゃないかな。役員が少ないから。町会もいろいろ役員不足になってくると思うんでね。そこら辺のなんというか、掘り起こしじゃないけどもやっぱりその町会のつながりとかその辺がちょっとね、関係あるんじゃないかなと思いますけどもね。</p> <p>職員の方はみんな防災課があれば、防災係があればそこにもうみんな挨拶して、全部その何か行事があるときは全部持ってって来てますので。その辺の町会の受け取りがちょっとまずいんじゃないかなと思うんですけどね。</p>
<p>事務局 (中野消防署警防課長)</p>	<p>ありがとうございます。河合委員からのお話で、まさにアプリの方ですけれども。前回の答申の東京都の方向性ということで、今まさに市場調査を始める検討段階にあるとのこと。ですので、今のうちに本当に現場が必要としている機能を具体的に示せるような、提案提言に繋がっていきたいというのが今回の提言の趣旨です。委員もおっしゃっていただいたとおりで、この辺りも先ほどご指摘いただいた通り、アンケートの聞き方ももう少しよく吟味して、誤解のないように、理解しやすいようにアンケートの中で現場の声を拾っていききたいなと思っております。</p> <p>後段の町会連携の話もですが、まさに消防団、まさに地域に一番近い立場として活躍の期待をしているところということですので、恐らく</p>

	<p>その手続きの簡便性や明確化など、まさにおっしゃった通りのものだと思いますので、そのような取り組みも必要なんじゃないかと。それが連携強化に繋がるのではないかとということも答申の中で提言していければと思います。ありがとうございます。</p>
有川委員	<p>アンケートの件で各委員の皆様からお話を聞いていて思ったのですが、できるだけアンケートの回答負担を減らそうと全体ボリュームをしばって、質問の修飾語も減らしすぎてしまったのかなと。消防団専用アプリというの、消防職員が使用している連絡ツールのアプリがありまして、受信したら通知が出て、秘匿性もあって、災害があったらその消防署用のアプリで通知が来て、どこどこで火災が入っているよとか、震災などが起きた場合には自分や家族に怪我がないよとか、すぐ参集できるよとかも返信できるようなアプリがあってですね。</p> <p>私は、そのアプリを実際に使用しているのでイメージできていたのですが、設問6がこの部分で、先ほどからお話があるように、それ以外で欲しい機能の項目がこの設問7なのかと思っていて、実際皆さんのお話を聞いて、質問で指しているものを同じの認識で消防団の方にアンケートで回答頂かなくてはいけないと思います。団の方がイメージしやすいように、設問6で想定しているアプリのイメージを注釈か何かでつけるのも良いかと思います。</p>
久保委員	<p>すみませんが、先ほど吉田委員の方から女性の団員の制服と活動服のお話がございまして、これはやはり式典ですとか役割上、制服がふさわしい場面、活動服がふさわしい場面というのがあって、それを着用の基準というのがあると思います。そこは、そこを重要視する必要があると思っています。ただ、制服があまり機能的でないということは言われておりますし、感じているところです。特に女性のパンプスにつきましては、これは式典ということで女性特有のフォームということを考えているのかもしれませんが、やはり機能性をもう少し重視した履物にしてほしいという声が出ているところでございます。そういう意見を私が言うようなつもりはなかったんですけども、先ほどそのようなご意見がございましたので、やはり制服と活動服というのはどういう場面で住み分けをしているのか、またさらに制服について、機能性を重視するような、今後ですけれども、検討いただけると良いのではないかなと思いました。</p>
委員長	<p>以上で本議題を終了いたします。</p>
事務局 (防災担当課長)	<p>・今後の審議予定について説明</p>
委員長	<p>ただいまの説明について何かありましたら委員の皆様、挙手の上ご発言願います。</p>
各委員	<p>(挙手する委員なし)</p>

<p>委員長</p>	<p>それでは詳細が決まりましたら、開催通知を後日ということで送らせていただきます。</p> <p>次に議題4番、その他ですが、委員の皆様から何かご発言がございましたか。</p>
<p>河原井委員</p>	<p>今、その他なんで、その他できる話などをさせていただきます。新築マンションについては、工事始まる時に町会長なら町会長に挨拶来て、そのときに町会にも加入してくださいよと言うと、はいわかりましたって言うんですよ。それで1回目ぐらいは加入しても、管理会社が変わったりすると、もうそこで途絶えちゃうんですよ。それで追求していくと聞いてなかったよとか、はぐらかされるという。そういうのが町会の中では今の現状ですね。だから行政もそういうものをもう少し追えるようなシステムをつけて建築許可を出すとかね。そうしないと本当にマンションは地域と関わりを持ちたくない方が多いんですよ、どうしても。中には大家と一緒に建物もあります。そういうところは大家さんが積極的だと、いろいろとそういうのに参加する部分もあるんですが、やっぱりマンションだけで管理人だけっていうのと意識の違いが当然出てくるんですよ。だからそれが今、私も町会長をやった時に困ったなって思いはありましたし。</p> <p>マンションの中で確か50人以上でしたっけ？個別で訓練するようになって。あれは昔の話でしたっけ。だから、過小申告して49人ならやらなくていいとか、そういう逃げ方もあったりもしましたし。だから、本当にマンションを巻き込むっていうのはもう永遠の課題じゃないかなと思うんです。本当に、町会で世帯数の何割加入かっていう仕分け方をした時もあったけれども。マンションは町会費を一括していただくんですけどもね。町会によっても100円であったりね、年間1,200円くださいよとかあるんですが。やはりマンションとなると一棟でおいくらっていう値段で町会との、折り合いをつけて、それでやるのが一般的、習慣みたいだったんですよ。だから、これからはやはり集合住宅が多くなると、それをどうやって町会に取り組んでいくかということは、もう地域の永遠の課題ですね。だから、区議会議員の方々も逆にそういうものを啓蒙していただくと、大家さんや建築会社に上手に啓蒙していただくと町会も助かるなというのが現状だと思います。</p>
<p>大野委員</p>	<p>うちもまっすぐ面しているところにも今マンションがあるんですけど、もう20年以上経つんですけどね。そこなんか、入りたいっていう人が何名かいるんですよ。ただ、その中で建物の中で結局孤立しちゃうと嫌だから言えないと。そういうような感じの方もいるし。</p> <p>それから賃貸マンションはほとんど、管理人さんがいても管理人さんの自由にはならない。やっぱり大家さんのためだって言っちゃえばそのままというのがかなり響いてくる。うちのとこなんかかなり賃貸マンションあるんですけど、ほとんどが入ってもらえない。そうい</p>

	<p>うような実態ですね。</p> <p>それから管理組合が入っちゃうと、うちなんかも何件か来たことあるんですけど、建設会社の場合はいいんですよ、まだ。ところが、管理会社が入っちゃうと、うちは聞いてないからとか。何年かこう続けて持っていても、その場でわかりましたって受け取って屑かごに入れちゃうとか、そんなような感じで。住人の人に聞いても、私たちそれ聞いてないですね、というようなことがあります。</p>
荒木委員	<p>マンションとか、大きい建物の中には都営住宅と公社ハイム、あると思うんです。自治会がない都営住宅も今ありますよね。そこについては東京都がしっかりと、これJ K Kさん政策で、東京都政策連携だったらJ K Kさんが管理をしているので、防災組織をできる限り中で作っていただくようにとか、町会とできるだけつながりができるように、いろんなチラシを入れて、自主防災組織を作れますよみたいなものは努力をしています。ただ民間にまでなかなか難しいので、ちょっといろいろ考えないといけないなというふうに思っています。</p>
河原井委員	<p>もう逆に町会に役員を送り込んで協力していただいている都営住宅もありますし。公社でも独特に作って、その中から役員を出してるところありましたけど。今、境目のところの大きなビルはそのままなのかな？</p>
荒木委員	<p>あそこはしっかり町会と連携をしているいい例みたいですね。</p>
大野委員	<p>いろいろなことに関しても、やっぱり制服で行かれるのと私達3人でこう言うってお話するのはやっぱりちょっと違うみたいな。</p>
事務局 (防災担当課長)	<p>・閉会挨拶</p>